2009年度 修了

知的障害のある成人における施設外支援に対する学生ジョブコーチ支援
- セルフ・マネージメント行動の形成・維持に向けた環境設定の検討 -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害･行動分析クラスター
山口　真理子

本論文は、筆者が学生ジョブコーチとして、障害のある成人を対象に、京町家の清掃業務についての就労支援（施設外支援）の実践をまとめたものである。

支援実践および研究の主な目的は3点であった。1つは、委託された業務を遂行、成立させるために、従来型のジョブコーチ作業と同様に、対象者における作業遂行自立率を上げることであった。2つめは、知的障害のある個人の「キャリアアップ」のための支援を行うことであった。具体的には、個々人のセルフ・マネージメント行動の形成と維持に向けた支援を行うとともに、支援内容を検討することであった。3つめは、NPO（共同作業所）と企業（京宿家）と協働しながら、当事者のキャリアアップを前提として継続的就労のために、第三のセクターとして大学（学生ジョブコーチ）がどのように機能していけるかという、連携そのものの可能性を検討することであった。

支援手続きとして、本実践では対象者が行った課題分析を基に作成した「作業工程表」を導入、作業工程表を用いての作業遂行場面を設定するとともに、作業開始時と終了時に「振り返り機会」の設定を行った。

支援の結果、各対象者において作業自立遂行率が上昇した。その他にも、作業の中で仕事をしやすくする工夫や効率よく作業を遂行するための工夫を対象者自らが提案し、それを実行するといったさまざまなセルフ・マネージメントを通じたキャリアアップがみられた。さらに、施設外支援を開始する前までは共同作業所への無断欠勤が多く、出勤支援を必要としていた対象者1名について、本実践開始後より出勤率が急上昇し、体調面などを考慮しながら予め作業担当日の変更を要請してくるなど、出勤管理も行うようになった。

以上のことから、本実践を通して、まず直接支援によって各対象者の作業遂行自立率を高めることができたこと、対象者のセルフ・マネージメント行動の形成をできたことが成果として挙げられた。そして今後の課題としては、各対象者において本実践で形成されたセルフ・マネージメント行動を般化させ、作業者同士で安定した作業遂行と完成度を維持することが可能となる環境の設定及び手続きの検討が挙げられた。

また学生ジョブコーチシステムにおいては、施設外支援という枠組みにおいてジョブコーチ支援を行うことができるという、支援場面や連携機関の拡大を示唆したことが成果として挙げられた。さらに、この新たな連携の試みによって、障害のある個人への継続的就労支援の展開方法の一事例として､今後学生ジョブコーチシステムが担う可能性のある｢新たな地域セクターとしての役割」が示唆された。